

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-A-2		更新日		2025/1/31	
サイト名		森山石が伝える ^{きたまえぶね} 北前船の栄華跡 ^{えいが あと} ～青石畳通りと美保神社 ^{あおいしだたみどり みほ}					
基本情報	区分	☐ 有形 ☐ 無形 ☒ その他					
	所在地	松江市美保関町美保関					
	指定別	①美保神社本殿 国指定（指定番号02127） ② 拝殿 国登録					
	種別	①重要文化財 ②有形文化財(建造物)					
	指定／登録年月日	①1982(昭和57)年2月16日 ②2022(令和4)年6月29日					
	管理団体／モニタリング	大山隠岐国立公園					
	周辺施設／アクセス	☒ トイレ ☒ 売店 ☒ 飲食店 ☒ 駐車場(30台) 松江だんだん道路川津ICから約26km、約35分。美保神社鳥居横。					
	留意点						
サイトの解説	歴史・文化	青石畳通りが敷設されたのは文化年間から弘化年間(1804～1847年)の江戸時代後期。この地は江戸時代中期以降北前船の西回り航路の寄港地として栄え、50件ほどの回船問屋が集まっていたという。その物資の積み降ろし作業の効率化のための舗装として、当地の海石を切り出して敷設したもの。その当時の面影を残す古い町並みと石畳の道が落ち着いた雰囲気を醸し出している。 美保神社は、創建の由緒は不詳ながら『出雲国風土記』に「美保社」と記され、創建以来1200年以上の歴史を有する古社である。祭神の事代主神(コトシロヌシノカミ)はえびす神として商売繁盛の神徳に加え、漁業・海運の神、田の虫除けの神としても信仰を集めている。また、「鳴り物」の神様として楽器の奉納も多い。近世頃から「大社(出雲大社)だけでは片詣り」と言われるほど、出雲大社とともに参拝者が増えるようになり、出雲大社とあわせて「出雲のえびすだいこく」と総称される。					
	地形・地質、生物・生態等	青石畳通りは、えびす社の総本社である美保神社の入り口付近に江戸時代後期に敷設された。石畳が敷き詰められており、とくに雨後には綺麗な緑灰～青灰色を呈す。この石畳には2種類の石材が利用されている。大部分の石材は、松江市美保関町森山や日本海に面した島根半島北東部の雲津、軽尾、才地域の海岸などから採石された古浦層の砂岩で、森山石あるいは海石と呼ばれている。もう一方は江戸時代に福井県福井市足羽山で採掘された笏谷石(しゃくだにいし)である。笏谷石は下部中新統系生層に属するデイサイト質火山礫凝灰岩である。 この地域は、かつて美保関断層崖と呼ばれていたように東西に亘って急斜面をなしている。平坦地が限られているため集落は、海に面して舟屋のように並んでいる。美保神社は、入り江奥の西側で安山岩の火山碎屑岩と砂岩層のほぼ境界付近に建造されている。背後の山は民謡「関の五本松」で知られる五本松公園がある。この五本松は、小泉八雲が隠岐への旅のなかで語っているように、古くから航海の目標とされてきたが、現在はない。また、背後の山には東端の地蔵崎まで行ける遊歩道が整備されている。 また、青石畳通り付近には、絶滅危惧種であるアオイゴケが生育している。三保神社周辺の森林は、原生的な森林が残り、地域の景観を代表する森林として、特定植物群落「美保神社照葉樹林」に指定されている。					
写真・図等							
		青石畳通り		美保神社			
参考文献							